

浄化槽の整備効果 2 近畿・中国エリア

全国自治体での浄化槽整備の取組と整備効果レポート

さまざまな整備効果事例を紹介



近畿・中国地方の各自治体での整備効果を紹介します

滋賀県

5年間で水質が改善されました!

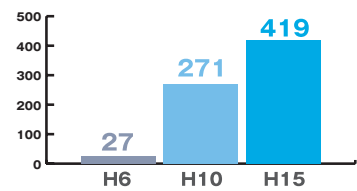
東近江市

人口	114,366人
浄化槽設置数	1,603基
整備人口	5,245人

合併前の旧永源寺町では、平成6年度から地区の中心を流れる愛知川上流の地域を整備したのをかわきりに浄化槽整備事業を実施し、毎年約10~20基を面的整備しました。これにより、水質汚濁をくいとめ、愛知川の清流を維持しています。キャン

プ場には、自然観光資源を求めて多くの観光客が訪れています。また、ハエなどの害虫も減少しています。

浄化槽設置基数の変化(基)



兵庫県

減少していたホテルが年々増加しています!

多可町

人口	24,716人
浄化槽設置数	840基
整備人口	3,225人

多可町は、平成17年11月1日に多可郡3町が合併し、人口約25,000人の町となりました。そのうち旧加美町(現多可町加美区)は、最上流部の集落がいち早く合併処理浄化槽整備を始め、平成17年度末には392基設置しました。

このような浄化槽などの生活排水処理施設整備事業により、町の南北を貫流する杉原川やその支流の水質も改善され、減少していたホテルも年々増加し、今では阪神方面からも、観光客がホテルの見学に訪れています。また、きれいな水にしか生えないと言われる梅花藻(ばいかも)の花も見られるようになっています。

島根県

ホテルが飛び交う川が蘇りました!

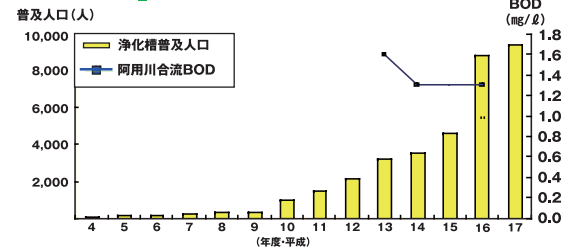
雲南市

人口	45,086人
浄化槽設置数	2,539基
整備人口	9,806人

浄化槽による効果事例(赤川)

平成2年度から浄化槽整備事業により年間約10~20基程度整備していましたが、平成10年度からは浄化槽市町村整備事業を開始し、年間約200基を目標に整備を行っています。この結果、ホテルの数も徐々に増加し、たくさんのホテルが飛び交う赤川が蘇りつつあります。

赤川の水質と浄化槽普及人口(人)



※H4~H8普及人口には、補助外合併等の人口を含まない。
※H15BOD(6月)値は未測定
※H16~普及人口は雲南市全体値(合併後の値)

赤川の水質は僅かな改善に留まっていますが、ホテルの生息する小河川では、浄化槽整備により大きく水質改善が図られていると考えられます。



雲南市大東町 赤川



大東町で草むら飛び交うホテル

津和野町

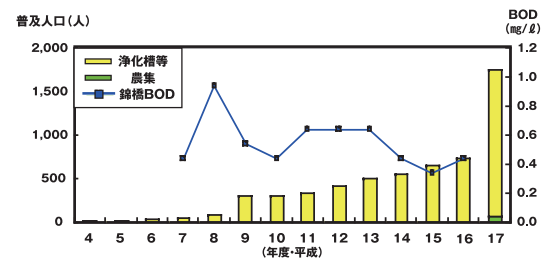
水質が改善され観光客にも親しまれる川に!

人口	9,396人
浄化槽設置数	529基
整備人口	1,756人

浄化槽による効果事例(津和野川)

平成4年度より整備を開始し、年間約20基の整備を行なった結果、近年徐々に水質が改善傾向にあり、津和野川や殿町通りでは多くの観光客が水に親しんでいます。

津和野川の水質(mg/l)と浄化槽・農業普及人口(人)



※H4~H8普及人口には、補助外合併等の人口を含まない。
※H17普及人口は旧日原町を含む値(合併後の値)

生活環境の変化により水質が悪化していましたが、浄化槽等の整備により徐々に水質が改善されています。



殿町通り



殿町通りを泳ぐ鯉

津和野川でもたくさんの鯉が泳いでおり、観光客や住民の憩いの場となっています。



津和野川

邑南町

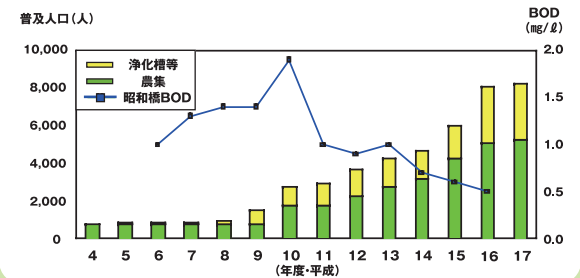
浄化槽のおかげで水がきれいになりました!

人口	12,891人
浄化槽設置数	921基
整備人口	3,191人

浄化槽による効果事例(出羽川)

邑南町を流れ江の川に注ぐ出羽川には、国の天然記念物であるオオサンショウウオや、しまねレッドデータブック絶滅危惧I類に指定されているオヤニラミが生息しています。これらの種は、県内でも水のきれいな限られた河川にしか生息しておらず、産卵の際には特にきれいな水を必要とします。出羽川では、平成10年まで水質が徐々に悪化する傾向にありましたが、流域の浄化槽(年間約40基設置)や農業集落排水施設の整備により、近年BOD値が低下し水質が改善されています。

出羽川の水質(mg/l)と浄化槽・農業普及人口(人)

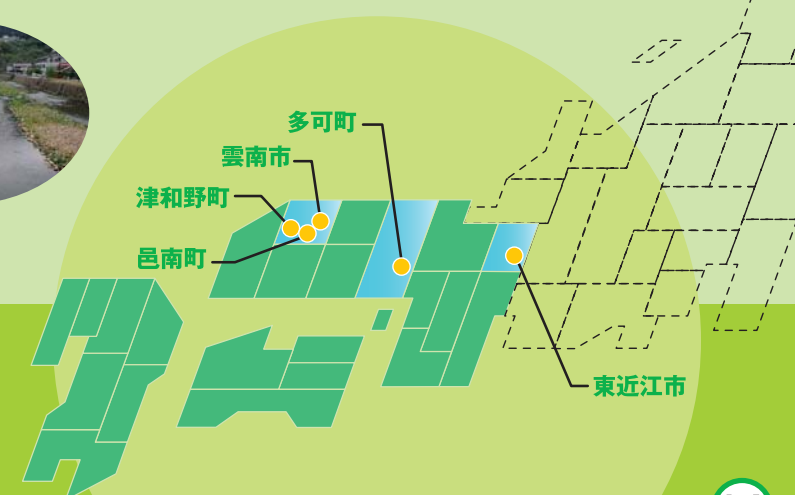


レッドデータブック絶滅危惧I類に指定されているオヤニラミ



国の天然記念物であるオオサンショウウオ

出典:「しまねレッドデータブック」



調べてみよう やってみよう

知っている街や村の名前

調べてみた街や村のようす

市町村名:

見どころ・食べ物・名物・歴史など

街や村の形を描いてね!